

令和7年度 学校教育目標・学校経営方針

杉戸町立杉戸小学校長 千葉 耕平

1 学校教育目標 『よく考え すすんでやる子』

2 目指す児童の姿（学校教育目標を実現している具体的な子供の姿）

主体的思考をする⇒自らの問いを見つけ、学ぶ力を高めようとする子

◎見通し（単元・本時）、思考・判断する時間の確保、総合的な学習、生活科の充実

共感的感情をもつ⇒人を尊重し、関わり合える子

◎学級経営の充実＋多くの職員が目ですべての子供たちを育てていく

創造的行動をとる⇒自らの力を活かし、学びを追求していく子

◎挑戦できる場、試行錯誤できる場の工夫、子供主体の授業、特別活動、学級活動の充実＋体力づくり

3 目指す学校像（3つのわ ECT）

「子供・教職員がチャレンジ意欲を高め、創造性を発揮する教育活動が組織的に展開される学校」

(1) 教職員一人一人が持ち味を発揮し、「創意」と「チャレンジ」の精神にあふれた組織力の高い学校

- ・「子供一人一人を確実に伸ばす教育」で一致できる教職員の輪・チーム力
- ・子供一人一人の成長を促す魅力ある授業を実現できるための校内研修の充実
- ・肯定的な子供理解に立つ教職員の意識と実践力（子供たちの一番の言語環境である教師の言葉）
- ・教育課程を確実に実施するための合理性・効率性が高い分掌組織

(2) 生涯にわたって学び続けるために必要な意欲や学び方、基礎的な知識・理解など、生涯学習の基礎・基本を確実に身につけられる授業が充実した学校

- ・子供一人一人が、目的意識と見通しを持って問題解決する学習過程の重視（主体的な学び）
- ・子供一人一人が、自分の考えを持ち、交流し合い学び合う教材や活動の工夫（対話的な学び）
- ・子供一人一人が、学んだことを生活に生かしたり、これからの学習と関連付けたりする力の育成（深い学び）
- ・子供一人一人の学習状況を把握する教員の見取り、各種調査結果の分析スキルの向上

(3) 家庭・地域社会との相互理解・協力を図り、学校の役割をよりよく果たして、その信託に応える開かれた学校

- ・学校の基本姿勢・教育活動をPRする情報発信の活性化
- ・家庭、地域の声（期待、要望、批判）の活用（杉戸町学校評価システム）
- ・地域に人材や教材を求め、地域の教育力を活用した教育の推進（すぎとふるさと学習）

4 目指す教師像

「人間性ゆたかで、健康で、魅力ある教師」

- (1) 子供の心を耕し、よさを引き出す教師（嚮導）※1
- (2) 子供と共に働き、共に伸びる教師（協働）※2
- (3) 保護者・地域に信頼され、連携に努める教師（協同）※3
- (4) 研究と修養に努め、学び続ける教師（共同）※4

※1「嚮導」；先に立って案内すること。また、その人。

※2「協働」；協力して働く。

※3「協同」；共に心と力を合わせて物事を行う。

※4「共同」；同じ目的のために一緒に事を行う。

5 学校経営方針（子供ファースト ～全ての教育活動は全ての子供たちのために～）

- (1) 凡事徹底 ～**当たり前のことが当たり前**にできる教職員と子供～
「時を守り 場を清め 礼を尽くす」を基に日々繰り返される当たり前のことを大切にする。
- (2) 組織力を生かした学校経営の推進 ～「チーム 杉小」としての取り組み～
一人一人が組織の一員としての自覚をもち、**組織で対応できる教職員集団**づくりに努める。
- (3) 教員の授業力向上 ～プロフェッショナルとしての自信を持った教育の実践～
授業研究（**たゆまぬ教材研究と深い児童理解**）を柱とし、授業力の向上に努める。
- (4) 安心・安全、潤いのある教育環境の整備
子供との絆を深め、よりよい人間関係を築く学年・学級経営、人権を尊重する教育を推進する。
- (5) 家庭・地域と一体となった教育の推進 ～地域と共に歩む学校づくり～
地域を巻き込んだ開かれた自慢できる学校づくりを推進し、「家庭でしつけ 学校で教え 地域で育てる」教育を推進する。**※家庭や地域でも、気持ちのよいあいさつができることをめざす。**

6 本年度の重点（杉戸町5つの共通実践）

(1) 学級づくり・教室づくり

「学びの空間」としての環境整備

「学びの約束」があり、**「誰もが安心して学べる温かい関係」**があり、「美しく整頓された場」である学級づくり・教室づくり

(2) 基礎力・学習スキルの育成

児童が主体的に学ぶための、実態に応じた基礎力・学習スキルの定着

・国語の基礎力（読解力）・算数の基礎力・その他の教科の基礎力

・**書くスキル（自分の考えを整理して書く）**

・**聴くスキル（対話のために相手の意図を分かろうとして聴く、共感して聴く）**

・**話すスキル（自分の考えを整理し、相手に分かるように話す）**

(3) 授業改革

「主体的・対話的で深い学び」の視点に立ち、授業改革を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現します。

主体的学びの視点…見通しを持って**粘り強く**取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる

学びの実現

対話的学びの視点…他者との協働や外界の情報との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める学びの実現

深い学びの視点 …習得・活用・探究という学びの課程の中で、各教科等の「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連づけてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に想像したりする学びの実現

(4) 家庭学習の推進

- ・家庭での学習習慣
- ・予習を通して学ぶ意欲を高め授業に生かす力
- ・復習を通して学習内容を定着する力
- ・自ら学ぶ楽しさ

(5) 非認知能力の育成

点数化、数値化できない個人の持つ能力の育成を意識した授業、教育活動を実践する

***やり抜く力（G R I T）** 目標達成に向けた「情熱」と「粘り強さ」

- ・コミュニケーション能力、協調性、自制心、意欲、集中力、創造性、自尊心、自信など

今年度は、特にやり抜く力（G R I T）、意欲、創造性、自信の4つの非認知能力の育成について、学校全体で取り組む。

子どもは教師の鏡である、教師が変われば子どもも変わる

教師が、明るく楽しい性格であれば、クラスの子どもは、いつのまにかそうなっていく。

教師が調べるのが好きで、いつも調べていると、子どももいつのまにか調べるのが好きになり、よく調べるようになる。

ユーモアのある教師のクラスでは、ユーモアを理解し、ぎすぎすしなくなっていく。

何でも教えこみ、わからせ記憶させるような授業をしていると、子どもは考えなくなり、すぐに記憶しようとするようになる。

じっくり資料を見せ、じっくり考えさせる授業をしていると、子どもたちはいつのまにかそうなっていく。

善きにつけ悪しきにつけ、あまりにも自分に似てきた子どもを発見すると気味悪くなり、恐ろしくなる。やはり教師は大きな影響を与えている。

教師が変われば、子どもも変わる。子どもが変わったなあ、と気づいたときは、教師も変わってきているのである。

教師は、自分の変容をめざして努力しなければならぬ。教育技術もさることながら、人間全体で影響を与えていることを忘れてはならない。

（有田和正…一九三五～二〇一四年、筑波大学付属小学校、愛知教育大学教授、東北福祉大学教授、同特任教授を歴任した。教材づくりを中心とした授業づくりを研究し、数百年の教材を開発、授業の名人といわれた）

凡事徹底

◎何でもないような当たり前のことを徹底的に行うこと。

- ・当たり前のことを極めて、他の人の追随を許さないこと。

◆学校生活における「凡事」とは

- ・あいさつをすること
- ・廊下や階段は、右側を静かに歩くこと

- ・自分が使ったもの（場所）をきれいにすること
- ・くつをきれいにそろえること
- ・時間を守ること

※何か一つ「一年間 徹底」するものを決める！⇒学年・学級の実態に応じて子供と相談して決める

◆学習における「凡事」とは

- ・その学年で学ぶことをしっかりと身につけさせること
- ※「この単元では」「この学期では」あるいは「この時間では」これ！という、
基礎・基本は、徹底的に！（ただし、子供の納得感を伴う必要あり）

◆そして、自分の生活（仕事）における「凡事」とは

◎遅くまで残って仕事することの常態化は「凡事」ではない。

（やらなければならないときは、ありますが…）

- ・「ふれあいデー」は、必ず退勤時刻に退勤すること
（できれば、週1回は、普段より早く仕事を片づけ退勤すること）
- ・月に一度（学期に一度）、「〇〇記念日」を自分で設定し、その日は「自分（家族）を最優先」にする…
なども。

※杉戸小学校の子供たちのために、「自分を大切にする」ことが「凡事」。それを徹底する！

◆「徹底」とは

- ・スタンス（方針・方向性・態度・姿勢…）を変えずに、やり通すこと。
どうしても変えなければならない時は、全員の賛同のもと。
しかし、しょっちゅう変えるものではないし、安易に変えてはいけない。
→ 「スタンスのブレ」が信頼・信用を失う一番の要因である。
- ・そして、安易なミスはしないこと。
（避けられないミスもありますが、多くは防げるし、防ぐ努力や取り組みが重要。
例えば、文字（平仮名・片仮名・漢字）や数字の書き順。子供や保護者の名前など。）

時を守り、場を清め、礼を正す

これは、戦前戦後を通じて、日本の教育界最大の人物である森信三先生の言葉である。「時を守り、場を清め、礼を正す」森信三先生は、この言葉を「これ現実界における再建の三大原理にしていかなる時・処にも当てはまるべし」と述べている。

◆「時を守り」とは、時間を守ることである。

時間は生命の刻みである。時間を守るとは相手を尊重することであり、相手の生命を大切にすることである。また、そうすることにより、自分自身が信用を積み重ねることができるという意味である。

「時を守る」ことは、約束を守ることにつながる。人は大きな約束は守るが小さな約束は忘れたり無視したりすることがある。小さな約束をおろそかにしてはいけない。小さな約束をきちんと守ることが信用につながる。実践目標は、人との約束の5分前にはその場に居合わせること。また会議等の場合、すべての予定の5分前には姿勢を正し、心を静め、開始を待つことである。

◆「場を清め」とは、掃除をすることである。

掃除をすることの意味は5Kで表される。①気がつく人になる②心がきれいになる③謙虚になれる④感動の心をはぐくむ⑤感謝の心が芽生える

職場（学校）をきれいにすることによって社員（教師と子供）の心を磨き、社員（教師と子供）の人となりを磨

き高めていくことになる。実践目標は、一つでも足元のゴミを拾うこと。一つ拾えば一つだけきれいになる。

◆「礼を正す」とは、挨拶や返事をしっかり行うことである。

挨拶の意味は、心を開いて相手に迫ること。実践目標は、朝の挨拶は相手より先に、明るくはっきりと気持ちのよい挨拶をすることである。そして呼ばれたら「ハイ」と返事をすれば、人間関係がよくなる。

こちらから	
坂村 真民	
こちらからあたまをさげる	
こちらからあいさつをする	
こちらから手を合わせる	
こちらから詫げる	
こちらから声をかける	
すべてこちらからすれば	
争いもなく	
なごやかにいく	

自覚

その１；学びの自覚

筋トレをするときは鏡に映しながら、鍛える部位を意識することで効果が上がる。

歯みがきも鏡を見ながら意識で行うことで、磨き残しが少なくなる。

学びも同様、「今、〇〇の勉強をしている」「この時間で勉強したことは〇〇」という意識（自覚）がないと、効果は上がらない。（分かった・できた“つもり”で終わってしまう。）

「自覚」することで、集中力も高まり持続する。

教える側（教師）も「今、この時間は、子供達に〇〇の力を付けさせる」という、“ねらい”の自覚が重要である。

そのためにも「週案簿」を適切に活用したい！週の“案”であり、週の記録簿ではない。

これが「カリキュラム・マネジメントの確立」ということである。

その２；生徒指導の自覚

指導内容の共通理解（指導する側とされる側）…それぞれの「自覚」

なぜ指導されているか（叱られているか）、分かっていない（分からない）場合がある。特に、発達障害等でこだわりが強いなどの場合は、確認が必要。

「あなたは今、叱られています。」「なぜ叱られているか、分かりますか？」

この「自覚」がないと、指導したことは子供も中には入っていない。

生徒指導

・スピードが命！（先手必勝！）

・生徒指導（危機管理）は「さ・し・す・せ・そ」

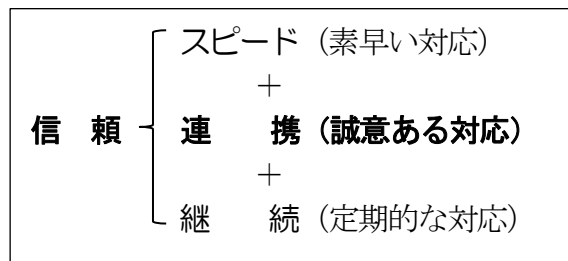
さ…最悪を想定し、最善を尽くすために

し…初期対応を確実に

す…スピード感を持って

せ…誠実な対応を心がけ

そ…組織で取り組む



・指導は、短く・深く。例えば、職員室や校長室で管理職から指導された後、担任等の先生から同じような指導をしても効果は薄い。（同じ指導内容をしつこく続けない。されている方は「またか…」と思うだけ。指導している側の自己満足にしかならない。確認程度でよい。）

・ある音楽の指導者の言葉「大きい音は心に届くけど、心に響かない。心に響くのは、小さく繊細な音である。」

- ・組織で対応。

担任している学級で、生徒指導上の問題等が起きれば、担任としての責任を強く感じると思う。しかし、全てを「自分が…」とか、「自分で…」とか思わないこと！思いすぎると出口が見えなくなることがある。

子供の一番身近な先生として、子供のことを一番理解している（知っている）先生としてやらなければならないことは当然たくさんある。しかし、管理職・生徒指導主任・学年主任・同僚に任せてもいいこともある。場合によっては、保護者・地域に協力や支援をお願いすることがあっておかしくはない。

自分の思いや悩みは、ぜひ声に出しましょう。

「チーム杉小」は、教職員だけがチームではない。「チーム杉小＝子供＋教職員＋保護者＋地域」である。

※「学校が家庭や地域に信頼される」には、“先生（担任）と子供”、“先生（担任）と保護者”の信頼関係を構築していくことが根底である。

※意識の改善点

- ・今までも、そうだった → これで、いいのか？
- ・よくあることだから → あっていいのか？あってはならないことに、ならないか？
- ・たいへんだからやめよう → 子供がたいへん？先生がたいへん？
- ・できていないからやめよう → なぜできないのか？やめた方が教育効果が上がるのか？
- ※「なぜ、やめるのか」と問われたときの説明（裏付け）をしっかりと持つことが大事。（説明責任）
- ・時間がない（足りない） → どうすれば時間ができるだろう？
- ・相談するとしかられる → 相談してよかった、安心した

※少しの違いで

- ・まさか と またか
- ・一言言う と 一声かける ・手を出す と 手をかける ・目くばせ と 目くばり

研ぎ澄ませろ“五感”（視・聴・嗅・味・触）…特に「見逃さない目・聞き逃さない耳」

お茶の水女子大学名誉教授だった森隆夫先生の言葉

- ・教師は教科を担当していると同時に人間を担当している。
- ・教師は、**人間担任機能が必要条件。**教科担任機能が十分条件。
- ・**人間担任機能で一番大事なものは、子供たちから好かれて尊敬されることである。**
- ・人間は好きな人の言うことを聞くように生まれてきいる。好かれて尊敬されれば子供は黙ってついてくる。
- ・そういう立派な先生の心に感動する。
- ・そういう**人間相互の信頼関係を心理的契約**という。
- ・**心理的契約を結ぶために、先生は一生懸命授業をすればよい。**
- ・**手抜きをしない。その姿に子供は感動する。**
- ・あらゆる教科を通じて**先生が一生懸命教えることが心の教育。**
- ・好かれ尊敬される。親近感がある。近づきたいけど威厳があって近づけない。これが理想の教師。
- ・**好かれる基礎基本は嫌われないこと。人の悪口を言わなければ少なくとも嫌われない。だから、子供の悪口を言わず、人前では叱らない。**
- ・**尊敬される基礎基本は軽蔑されないこと。これは全力投球、汗を流し、手抜きをしない。一生懸命やる。これしかない。**

働き方改革の視点からは、少し外れる部分もありますが、森先生のおっしゃっていることは、教育に携わるものが肝に銘ずべきものが多いように感じます。杉戸町5つの共通実践の一つ目「学級づくり」の部分とも大いに重なる大切な教えだと思います。